

2025夏期しまね短期仕事体験 実施報告アンケート集計結果【受入事業所】

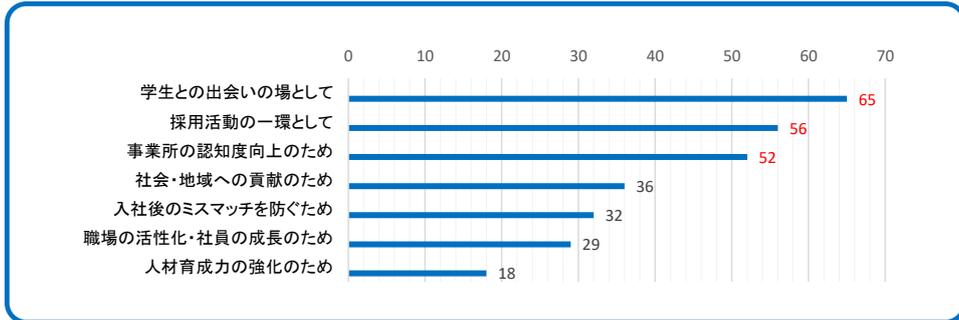
2025夏期しまね短期仕事体験受入事業所 実施報告アンケート

受入企業数 : 88社

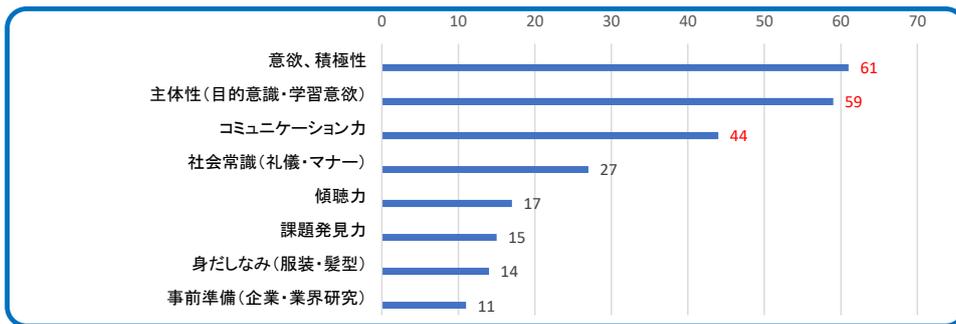
回答データ: 72件

回答率: 81.8%

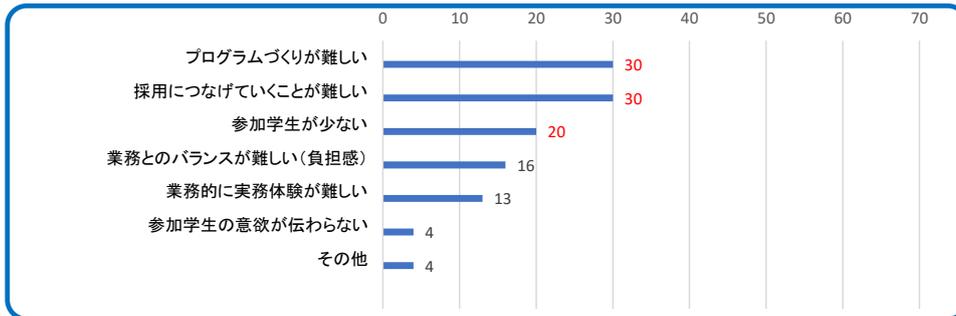
問1 短期仕事体験を受け入れた主な目的として該当するものを選択してください。(複数回答可)



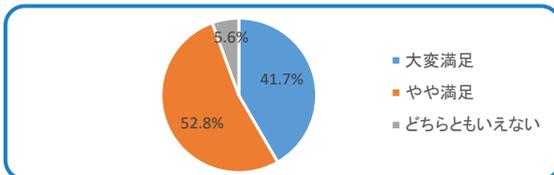
問2 短期仕事体験参加学生に求めていること(複数回答可)



問3 短期仕事体験で学生を受入れるうえでの問題点・課題(複数回答可)



問4 全体を通した満足度



2025夏期しまね短期仕事体験 実施報告アンケート集計結果【受入事業所】

記述1 短期仕事体験で学生を受入れる上での問題点・課題(抜粋)

【参加者数】

- ▶ 今回は参加学生が1名で、ここ数年はなかなか学生が集まらない傾向にあります。
内容や人員の関係で東京から出張が必要でしたが、出張旅費が結構かかってしまいます。さらには、万が一、学生が急遽欠席などになるとそれが無駄になるので、直前まで少し不安でした。当社としては会社見学もかねてできるだけ対面で行いたいですが、対応できる人員や内容によって本社から応援が必要のため、今後はハイブリッド方式での開催が認められることを強く願います。

【採用につながるか】

- ▶ 採用に繋がる手応えが無い。
今回参加して下さった学生は県外の就職もお考えとのことで、採用につながっていくのか不明です。学生の進路の選択肢が増えれば良いと思っています。
- ▶ 終了後に学生さんとの連絡をしても返答がないケースが多くありました。
インターンシップに応募してくれた学生が自社の採用試験を受ける割合が低いことが社内でも問題となっています。指導を担当する社員にそれなりに負担が掛かるため、なんとか採用試験の受験に繋げたいと思っています。ただ、社会・地域貢献として、割り切って行うべき、との声もそれなりにあります。

【プログラムづくりが難しい】

- ▶ 業務内容が定型的なものではなく、タイミングによって異なるため、受入れのタイミングに応じたプログラムの調整が難しいことが有ります。
ありきたりのプログラムでは意味がないので、事前に社内で何度も会議を開き学生さんに満足してプログラムを作成するため。来ていただいた時も出来るだけ丁寧に接したいので通常の仕事とのバランスは難しい。
- ▶ できるだけ体験可能なイベントのある期間で調整する反面、じっくり対応できる職員がおらず、プログラムの調整が大変でした。
様々な職種を分け隔てなく、実務体験していただきたいのですが、難しいです。ちょうどよい現場のお客様の承諾や、時期、現場での危険性を考えると、最適な現場を体験していただくことができません。学生からのアンケートで、「より実務に近いところを体験してみたい」という声をいただくことがあります。要望に応えたい気持ちと、現場がなかなか上手く調整できない現実とに挟まれています。
- ▶ 短期仕事体験の実践カリキュラムを毎年ブラッシュアップして実践していますが、学生の琴線がどこにあるのか少しずつ理解できるようになりました。特に今回は弊社若手社員を総導入し、私のようなオジサン感覚を排除して取組み一定の評価は得たと思っています。また日常業務との兼ね合いは今後の課題として解決していくものだと思います。

【業務とのバランスが難しい(負担感)】

- ▶ 学生の要望に沿ったプログラムづくりと当期間の担当者の業務負担をバランスよく計画することに難しさを感じました。
店舗にて体験を実施したが、従業員全員が接客対応する時間も生じてしまう。その間学生が待機状態になってしまいました。
- ▶ 折角お越しいただいても、内容が不十分だと印象を悪くする可能性が高いです。
内容を充実させる事と、それを実施するために現場と調整する事に苦労しました。
日々の業務をこなしながら、仕事体験に時間を割くことが難しかったです。
また、初めての仕事体験だったのでプログラムを考えるのも時間がかかりました。
- ▶ 受託開発を主に行っているため、顧客都合もあり実務体験が難しいです。
業務と並行しての対応になるため担当する社員に負担がかかります。
多くの学生が体験参加後に選考を受けるが、採用に至るのは1名前後。
多くの学生を受け入れるために、学生の希望に合わせて日程を組むこともあり、複数人いるとインターンシップに対する負担が増大する。

2025夏期しまね短期仕事体験 実施報告アンケート集計結果【受入事業所】

記述2 より良い「短期仕事体験」となるように、自社で工夫したことはありますか？

【プログラム内容】

- ▶ 学生の興味関心がある内容や希望する業務体験を交えるようプログラムを構成しました。
- ▶ 様々な部署の仕事を体験学習に重きを置き実施しました。
- ▶ 業務を俯瞰的に話ることができる人材に指導をお願いしました。

- 学生さんに、営業職とはなにか？を感じていただくためにプログラムを作りました。
座学とロープレは、新入社員研修と近い内容で2時間にまとめてライトな内容をしました。
- ▶ 座学やロープレでインプットしたことを、現場でアウトプットしてもらいました。
 - ▶ 人を深く知る事、商品の提案、ロープレなど、現場で行われていることを実践し、体感していただきました。
- 学生さんが、これから社会で働いていく中でリアルを感じてもらえたと思います。

- ▶ できる限り、接客ができるようにロールプレイング時間を多く割きました。
- ▶ 事前に各部署の仕事内容や企画する業務体験の資料を送付し、ある程度のイメージを持って参加いただけるようした上で、可能な限り学生が興味をもった部署の業務体験ができるよう希望部署のアンケートを実施しました。
- ▶ 体験以外の業務紹介等が退屈な時間にならないよう、クイズを取り入れたり期間中にクリアすべきミッションを用意しました。
- ▶ グループで体験・発表を行うプログラムとし、どのような仕事に就いた場合でもコミュニケーションが重要であることを伝えました。
- ▶ 独自のワークシートを用意し、自己理解やフィードバックの時間を設定することで、体験が有意義なものになるよう締めくくりました。

【事前準備・ヒアリング】

- ▶ 事前に聞いた目的を果たせるようプログラムの配分を調整しました。
- ▶ ミスマッチを防ぐため、初日のオリエンテーションで研修内容と最終成果についてすり合わせを行った。従業員とのヒアリングの場を多めに設定しました。
- ▶ 学生本人の希望も汲んで実習内容を計画しました。(今回、4日間の実習でしたが、3日間はこちらで用意したもの、残り1日はご本人の希望で実習内容を設定しました)
- ▶ 事前に体験したい内容を聞き取り、要望に沿った内容とした。年齢の近い若手技術者を担当につけ、一緒に実習や座談会を行うなど溶け込みやすい環境づくりを行いました。
- ▶ 学生の希望や専攻を聞き、一部プログラムを変えた。具体的には環境関係の仕事について、触れる時間を増やしました。
- ▶ 初めにヒアリングを実施し、学生の求めるプログラムにできる限り沿うよう意識して取り組みました。そのため、学生がやりたかった・体験したかったこととのギャップがある程度埋められたと認識しております。
- ▶ 事前の電話での打合せ時に体験してみたい内容を確認し、詳しいプログラムを作成しました。

【交流会】

- 過去の説明は、講義的な要素が強く、何も知らない学生には聞くことすら負担だったのでは？との思いから、今回から
- ▶ 説明はできるだけ簡素に、現場見学の時間を多めに設定した。また、社員との交流会も堅苦しいことは一切排除し、ざっばらんな交流会としたことは好印象だったのではないかと思います。
 - ▶ より実務に近い課題を用意した。より多くの社員と交流してもらう機会をつくりました。
 - ▶ 若手社員との交流や、いろんな社員と関わりをもたせる事を意識しています。
 - ▶ 文系出身の学生でも参加できるカリキュラムとしてノーコードでの疑似開発演習を実施しています。
 - ▶ 最終日の成果発表後に若手社員との交流会を行っており学生目線でも同年代に質問等ができる機会を作り、社員目線でも採用担当以外から見た印象を知ることができる様にしています。
 - ▶ 学生の参加動機などを知るため、Googleフォームで事前にアンケートを取りました。
 - ▶ 通常業務と、特別な日に行う業務が両方体験できるよう、プログラムを工夫しています。
 - ▶ 体験に沿ったリアルなテーマ。今後社会に出て役に立つ話をした。またランチミーティングを行い日常的な話や、いま悩んでいることを聞いて、課題とはまったく違う話をしてリラックスして課題に取り組んでもらいました。

【課題解決・振り返り】

- 初日に学生自身に目標を設定してもらいました。立てた目標に対して伴走をする担当者から都度進捗の確認などを徹底しました。必要に応じて目標の再設定やアドバイスなど行うようにしました。また「大人になって働くことをイメージしてもらうために先輩社員との交流やちょっと先の未来を考える時間など設定しました。
- ▶ 毎日振り返りの時間を設け、体験の質・価値が高まるようにしました。

2025夏期しまね短期仕事体験 実施報告アンケート集計結果【受入事業所】

記述3 全体を通した満足度の理由(抜粋)

【大変満足】

▶ 参加した学生さんが明るい人柄でスタッフともすぐに馴染み、課題にも積極的に参加していましたのでスタッフにとっても賑やかで楽しい受入となりました。

▶ 当社で予想していた以上の回答を学生さんたちが発言し、とても前向きで好感がもてた。指導した事が伝わり、社員も達成感があり満足しております。

学生さんの為になったと、自信をもって言えるからです。
企業は、人材不足で学生さんを困らせないのが本音だと思います。仕事体験などで来た学生さんに対して、過剰なおもてなしをしている事に対して違和感を感じています。
▶ 本来の目的は、学生さんが将来どんな業種に就職するか、そして島根県にも多くの企業があり、島根県で就職してもらう事だと思います。そのお手伝いをするのが、企業の役割だと思います。
そのような観点から、学生さんに営業職の魅力や、大変さ、今後の人生で役立つ気づきを持ち帰っていただけたかと思っています。

▶ パッケージ型の仕事体験でしたが、このような企画に参加される学生は意欲的で積極的な方が多いと思いました。
そのような学生に出会えたことが有意義でした。

▶ 昨年度よりも多くの学生に参加してもらえ、学生からの感想も高評価のものが多く、今後の説明会などにつながるためです。

▶ 学生にとって今後につながるような仕事体験となることを願っておりましたが、実際には学生ならではの視点で多くのご指摘をいただき、私どもにとっても学びが多い時間となりました。結果として、双方にとって有意義な仕事体験になったものと感じております。

▶ 学生が満足してくれただけでなく、受け入れる課では初の課があり今後の広がりが期待できるからです。

▶ 参加学生の方々が意欲的で、労働行政に関心の高い方をマッチングしていただいたためです。
受け入れた部署もインターンシップを実施したことによる気づきや学びがあったとの意見があったためです。

▶ 従来のインターンシップはマンネリ化していたところがあり、今年はかなり内容を一新させました。参加してくれた学生の満足度が高かったことや、プログラム内容が充実していた点から満足度は高いです。

▶ とても積極的に参加してくれました。
▶ 若いアイデアに新たな気づきをもらいました。

▶ 学生は熱心な方でコミュニケーション力があり、建築部のメンバーのように馴染んでいました。施工真っ最中の建築現場がなくて学生に施工管理の仕事が伝わりにくかったかと思いますが、対応した社員が色々な体験内容をプログラムに組み込んでくれて幅広く業務体験ができたと思います。

【やや満足】

▶ 会社側としては満足ですが、学生の満足度が気になります。
▶ 今後の参考のため学生からの体験の率直な意見を聞いておけば良かったと思っています。

▶ 参加学生がもう少し多いとさらに良いです。

▶ 会社側のやり方も毎年少しずつ変え良くなっている気がする。但し、学生の参加動機が「希望とは違う業種や職種を体験して視野を広げたい」とのことであったが、普段気付かない業種の仕事を少しでも理解してもらえたためです。

▶ 元々、公務員志望の2人の学生であったが、終了後「公務員になりたい思いが強くなった」等のコメントをいただいたためです。

▶ 学生さんの自己評価が85点、75点という回答を頂戴しております。学校では学べない体験ができた、自己研鑽になったと評価をいただいたためです。

▶ 企業側としては、精一杯できることを実施したが、学生にとって満足できる内容なのか不明瞭のため。
▶ また、本来であれば業務の体験を重視したいが、どうしても他のプログラムを通した体験となり間接的な体験ばかりになってしまう点です。

▶ 実際に採用につながると大変満足になります。機会をいただき、ありがとうございました。

【どちらともいえない】

▶ 学生は何を得て、私たちは何を与えたのか正直分からないです。